

プールでの事故を防ぐために

(小学校のプール監視を実施する保護者用)

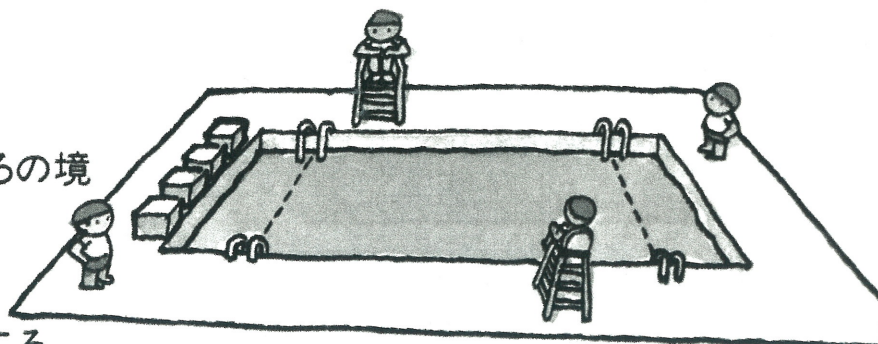
1 プールの監視の注意事項

- ① 監視の位置に注意する。一ヶ所に集まらず、死角を作らないようにする。
- ② からだにぴったり合ったものを着用する。
- ③ 監視は、常にプール内外を注意する。
- ④ 勝手に持ち場を離れたり移動したりしない。空白時間をつくらない。
- ⑤ 参加児童の人数を把握する。
- ⑥ 危険な行為をする児童を発見したら、すぐ注意する。
- ⑦ 救助方法、指示系統を明らかにし、救助器具などを点検する。
- ⑧ 気温、水温、風力、日照等天候に注意する。
- ⑨ 水温は、23℃以上が望ましい。

監視のポイント

プール

- ☑ 階段付近、スタート台の下
- ☑ 背の立つところと立たないところの境
- ☑ 排水口付近
- ☑ プールサイドから2m以内のところ
(浅いところでも滑って溺れることがある)



2 水に入る前の注意事項

- ① シャワーで髪の毛や体をよく洗うこと。
- ② 必ず準備運動を行う。ラジオ体操や膝・首・手首・足首の回旋、足の伸展など。
あまり激しい準備運動は避ける。その後に水に入ると血管が収縮し、ショックを起こす恐れがある。特に、天候が悪い日や水温が低い日には注意が必要。
- ③ 水に入る前にはからだを水温に慣らす。シャワーとプールの水温がかなり違うところがある。心臓から遠い位置から体表面の温度を水温に近づけていく。



3 遊ばす時の注意事項

- ① 同等の体格、泳力をもった者同士を二人一組でお互いに監視させながら遊ばせる（バディーシステム）。
- ② 遊ばせる時間の目安
小学校低学年 15分泳いで休む。
小学校高学年 20～30分泳いで休む。

4 休憩時の注意事項

- ① まず人員確認とプールの確認を行う。
- ② 全身の水をよくふきとる。
- ③ シャツなどを着用、保温と日焼け防止をする。
- ④ 児童の体調に変化がないか調べる。

5 泳いだ後の注意事項

- ① まず人員確認とプールの確認を行う。
- ② 整理運動をする。
- ③ 目や体をよく洗う。
- ④ 児童の体調に変化がないか調べる。
- ⑤ プールでの解散はしない。
- ⑥ 日誌の記入。

6 事故が起こった時の対応

- ① ただちに、救助行動をとるとともに、全員を退水させる。
あらかじめ、救助員、通報員、安全確保員を決めておく。
- ② 水難事故は、水を吐かせるよりもまずは、心肺蘇生とAEDを用いた除細動の手当てを行う。



事故防止を心がけましょう！